学校と家庭ではじめよう!デジタル・シティズンシップ教育

~共感と対話を通して子どもを支える~

国際大学グローバル・コミュニケーション・センター准教授・主幹研究員 豊福晋平先生を講師として お迎えし、ご講義をいただきました。また、所員から、家庭との連携についての実践発表も行いました。 受講者によるグループ協議では、各学校の課題や家庭との連携の実際について意見交換が行われました。

デジタル時代における学校 と家庭の連携、共通認識の持 ち方についてご講義をいただ きました。また、教材のご紹 介もいただきました。

講義①「GIGAスクール時代における家庭との連携・協働」 GIGAのお悩みとその対応

これまでと

- 大事にしない すぐ壊す ルールを守らせる
- 端末を使わせない
- 授業と関係のないことに使う 学習規律と統制を徹底する
 - 端末を使わせない
- 持ち帰りの長時間利用が心配
- ・ 家庭の問題として切り離す 端末を持ち帰らせない
- 大事にしない すぐ壊す
 - 子どもの大事な道具にする 毎時使う(壊すと困る状況を作る)
- 授業と関係のないことに使う
- 学習者中心のスタイルにする ・ 注意散漫を自分事として考える
- 持ち帰りの長時間利用が心配
- 家庭の学び(課題)をデザインする パランスを児童生徒が計画する

受講者より

- ○子どもたちが善き使い手として成長していけるよう、家庭と連携してデジタル・シティズンシップ教 育に取り組んでいく必要性を強く感じました。
- ○メディア利用の問題や対応法について具体的に知ることができました。本日教えていただいたことを これからの学校教育に活かしていきたいです。

所員による実践発表 デジタル・シティズンシップ 家庭との連携 3つのステップ 立ち止まる 行動する前にいったん立ち止まろう → 困りごとをキャッチする 考える 今、何をするべきか考えよう → 想いや願いを考える 信頼できる大人に相談しよう → お互いに、できることを話し合う

オープンスクールや 保護者懇談会での実践 を紹介しました。

受講者より

○保護者の理解啓発のために授業参観を活用するの はいいアイデアだと思いました。その際、一学級だ けで行うよりも、学校で、また小中連携していくと より効果的だと感じました。

子どもの発達段階に応じ た対応の仕方についてご講義 をいただきました。また、教 材について、T寧な解説をい ただきました。

講義②「対話・共感をベースにした子どものメディア利用に おける課題への対応と支援」



受講者より

- ○発達段階に応じたメディアバランスを考えていく必要があると思いました。そしてやはり、 この知識を子どもだけでなく大人も知っておくことが一番大事だと感じました。
- ○これからの時代に必要な力を子どもたちにつけていくには、デジタルシティズンシップ教育は 欠かせないものだなと感じました。